

全国を巡礼した人々

現在、隣の鳥取県では、来年の大山寺開山一三〇〇年を控え、色々な行事が企画されていますが、近年では四国八十八ヶ所開創一二〇〇年（H26）や、伊勢神宮式年遷宮（H25）など、古くから人々の信仰を集めた寺社が話題となったり、各地への参拝がブームになっています。

こうした寺社の参拝ブームは江戸時代にもありました。その一つが「日本廻国六十六部」です。これは美作国や備前国など、当時六十六の国に分けられていた各国の寺社を参拝してお経を奉納するという壮大な巡礼です。鎌倉時代の終わり頃から始まったといわれるこの廻国巡礼は、江戸時代の中頃に一大ブームとなりました。幕藩体制下で庶民が自

由に他国へは行けなかった時代には、伊勢神宮や大山参りなどの参拝にかこつけて一生に一度の大旅行をする人々は多かったのですが、この日本廻国六十六部は日本を一周するわけですから、大変な巡礼であったことが想像できます。

トや寺社はなく、各国内の寺社のいずれかを参拝すれば良いこととなり、江戸時代には各国の二宮や国分寺を参拝するという暗黙のルールもあつたようですが、厳守された決まりごとではありませんでした。

そして無事にこれを達成して帰郷すると、満願成就の記念碑として、また、自ら得た功德を他の人々に施すという意味も込めて廻国供養碑を建立することもありました。日本廻国六十六部の研究者である小嶋博巳教授の調査では、現在確認されている廻国供養碑は、全国で約八、〇〇〇基に及び、岡山県内には約四五

町内で最も古い廻国供養碑は、上齋原にある享保十年（一七二五）年に柳井氏が建立したものの（町指定文化財）で、自然石に文字が刻まれています。これは県内でも古い方で、全国的にもこの頃から供養碑の建立が激増しますので、庶民の日本廻国六十六部が盛んになったのもこの頃からだろうと思われれます。

明治時代になると、明治四年（一八七一）の太政官布告により、政府によって日本廻国六十六部の組織的活動が禁止されたり、神仏分離令等でこれまでの宗教観が変化したことにより、次第に行われなくなり、が、信仰心の篤い人々の中には日本廻国を行う者もあり、町内でも明治十九年（一八八六）年の供養碑を最後に、明治時代の供養塔は三基存在します。

こうした庶民の活動は、文献等の記録にはなかなか残ることはない、地域でも忘れ去られていきますが、路傍に残る石造物に目をとめてみると、当時の信仰や生活、地域の活動など、様々な歴史が見えてきます。

参考資料：『鏡野町の石造物』、『上齋原村史』、『鏡野町の文化財』、『日本廻国の旅と信仰』、『廻国供養塔データベース』他

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733



上齋原の柳井氏日本廻国碑
(享保10年〈1725〉)



東竹田の廻国供養碑
(明治19年〈1886〉)



真加部の廻国供養碑
(天保3年〈1832〉)

〇基存在します。そのうち鏡野町内では、上齋原四基、奥津二基、富一基、鏡野十基の計十六基確認されています。

廻国供養碑には決まった形はなく、町内でも自然石に文字を刻んだものや、墓石のようなもの、地藏菩薩像の台座に文字を刻んだもの、大日如来を刻んだものなどさまざまです。文字は基本的に中心に「奉納大乗妙典六十六部日本廻国」、脇に年月日や願主・世話人等の名前が刻まれます。設置場所も、街道沿いの目立つ場所やお堂のそば、墓地など様々です。